

令和6年度家庭教育講座

(各講話の主な要旨)

子どもにとって遊びは仕事。様々な体験や人との交流で自己肯定感が持てることが大切で、失敗も大事な体験。ママやパパの好きなことを一緒に体験し、時間を共有すると子どもの可能性が広がる。子どもの可能性は無限大なので一生楽しめるものを伸ばしてあげたい。

お金は夢を与えてくれるアイテム。子どもの頃に培ったものは一生続くため、お小遣いで渡したお金の使い方に親が口出ししない。貯金という魔法を教える。「12歳までにならず教えたいお金のこと」たけや ふみこ著を参考図書として活用した。

港 京子先生

人生100年、そのうち6年間が乳幼児期で、短いけれど大事な時期。「作られた世界」ではできない実体験を大事にしたい。子どもが課題を前にして葛藤を回避するのではなく、葛藤を経験しながら行動を選択する機会を大事にしていきたい。心の土台は「自己肯定感」で、生きる力の土台になる。子どもにとって「家庭」が安らぎのある楽しい居場所にしたい。

大場 富

恵先生

子どもの学校での学習の様子はノートを見れば分かり、子どもとのコミュニケーションツールになる。他人からの評価ではなく、自分が自分をどう思うか、どう感じるかが大事。自分は存在価値があって必要とされている、自分は生きている意味がある、生きていて良い！と思えるように子どもをハグし、心と身体で声を掛けることで自己肯定感は育っていく。子どものペースに合わせ、寄り添って「甘えさせる」ことで自己肯定感が育ち、自立していく。

村田 美千子先生



子育てや家庭教育に関する悩みや不安を軽減できるように、講話後、袋井市家庭教育支援員の進行で、県が作成した「つながるシート」を使用して、参加者同士の意見交換の場を設けています。

「性教育」は、病気や暴力から自分の体と心を守るために必要。プライベートゾーンは自分以外の人が見たり触ったりしてはいけないところ、自分のものであっても人の居るところで見たり触ったりしないところなので、家族でも一線をおくことが大事。「イヤだ！止めて！」と言ったり、逃げたり、誰かに話したりすることが大切。自分を大切に好きという気持ちを育てるために正しい知識が必要で、工口ではなく科学の話だと認識すると良い。子ども達が自分でよく考えて、自分で決める力をつけてもらいたい。

佐々木 睦美先生

セルフイメージは、何度でも書き換えができ、期待することで相手のモチベーションが上がる。(ピグマリオン効果)。相手の状況を受け止め、ゴールに向けて短く分かりやすい、相手をその気にさせる言葉かけをすることが大事。(ペップトーク)

受容(事実の受け入れ)し、承認(捉え方変換)して、子どもにしてほしい行動を肯定形で具体的に伝え、最後の一押しで激励する。信頼関係が元になって効力を発揮する。

熊切 千晶先生